

みどり 水土里ネット富山だより

(富山の土地改良情報)

2015
第567号

1月1日 発行



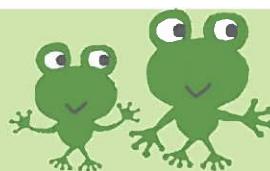
北陸新幹線（魚津市石垣新より）

監	監	代表監事	理	理	理	理	理	副会長	会長	
事	事	事	事	事	事	事	事	鹿	河合常則	
上	木	藤澤	夏野	横山	中川忠昭	吉野	大辻繁雄	朝日町土地改良区理事長	（学識経験者）	
田	下	（永見市土地改良区理事長）	井正樹	（砺波市長）	忠昭	（射水平野土地改良区理事長）	（常西用水土地改良区理事長）	（福光町土地改良区理事長）	（常東用水土地改良区理事長）	（学識経験者）
（他職員一同）	俊男	隆	修	榮	（布施川土地改良区理事長）	勉	義	（朝日町土地改良区理事長）	（常東用水土地改良区理事長）	（常西用水土地改良区理事長）



水土里ネット富山

(富山県土地改良事業団体連合会)



CONTENTS

1. 新年のご挨拶

富山県土地改良事業団体連合会長	河合 常則	1
富山県知事	石井 隆一	2
富山県議会議長	高平 公嗣	3
北陸農政局長	雜賀 幸哉	4
富山県農林水産部長	須沼 英俊	5
全国水土里ネット会長	野中 広務	6
2 「元気とやま」むらづくり推進大会2014の開催		7
3 水土里探訪ウォーク in 散居村高岡の開催		7
4 平成26年とやま水土里フォーラムの開催		8
5 平成26年度 第2回理事会の開催		10
6 平成26年度 富山県功労表彰		10
7 北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 農業農村整備事業に関する要請		11
8 第37回全国土地改良大会（山梨大会）		12
9 平成26年度換地関係異議紛争処理対策検討会（北陸ブロック）		13
10 平成26年度富山県建設優良工事（土地改良部門）の表彰		14
11 黒部川左岸土地改良区・布施川土地改良区合併予備契約調印式		15
12 土地改良区の組織強化を目指し、各種研修会を実施		16
(1)富山県換地センター研修会		16
(2)小水力発電施設見学会		16
(3)小水力等発電導入技術力向上地方研修事業技術研修会		17
(4)県単独農業農村整備 平成26年度直営施工研修会in富山		17
13 起工式・完工式		18
県営基幹水利施設ストックマネジメント事業庄西地区起工式		18
県営経営体育成基盤整備事業高善寺地区完工式		18
14 〈情報〉富山県農業用水小水力利用推進協議会		18
15 〈情報〉非補助農業基盤整備資金のご案内		19
16 〈お知らせ〉今後の主な行事予定		19



新年のごあいさつ

富山県土地改良事業団体連合会
(水土里ネット富山)
会長 河合常則

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい平成27年の初春を迎え、会員ならびに関係皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃から農業農村整備の推進に格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

農業農村は、安全・安心な食料の安定供給はもとより、豊かな自然環境や生物多様性の保全など、多面的な機能の発揮を通じて県土を保全し、県民の暮らしを支える重要な役割を果たしてまいりました。我々土地改良関係者も、農業所得の減少や農業者の高齢化の進行、農村の活力の低下といった問題が顕在化する中、受益農家の負担と地域住民の協力、行政の支援を得ながら農地や農業水利施設の整備を積極的に推進するとともに、施設の適切な維持管理に努めてきたところであります。

しかしながら、近年頻発する地震、集中豪雨等の自然災害は激甚化しています。加えて、多くの土地改良施設は耐用年数の超過による老朽化によって、施設機能が低下しており、農業のみならず地域住民の生活をも脅かすものであり、防災・減災や国土強靱化の観点からも土地改良施設の老朽化・耐震化対策の強化が求められております。

こうした中、政府においては、農業農村の所得倍増を目指すとともに、美しく伝統ある農山村の継承と食料自給率・自給力の向上に向け、農林水産業・地域の活力創造プランが策定されました。また、地方を中心として人口急減・超高齢化が急速に進行していくという課題に対し、「まち・ひと・しごと創生本部」が設置され、魅力あふれる地方創生に向けて動き始めたところであります。なお、今年度から法律に基づく制度として実施される「日本型直接支払制度」の活用による地域の共同活動の活発化と条件不利な中山間地域における生産活動の維持・継続が不可欠であり、土地改良区が新しく導入された多面的機能支払いについて、引き続き地域の中心的な役割を果たしていくことが重要だと考えております。

また、農業用水を利用した小水力発電は、農村地域に豊富に存在する水のエネルギーを有効活用することにより、土地改良区の維持管理費等の負担軽減や地域の活性化に寄与することから、マイクロ発電も含めて積極的に推進していくことが必要であります。

一方、昨年暮れには衆議院議員選挙が行われ、引き続き自公連立政権が発足いたしました。いずれにしても、農業農村は国の大本であり、日本の豊かな国土や自然環境も、農業農村が健全であって初めて維持されるものであり、日本の農業農村がこれからも力強く持続して発展していく、安定した農政に期待するものであります。

本会といたしましては、農山村地域の活性化と水・農地・里をこれからも適切に守っていくため、関係機関と連携を図りながら取り組んで参りたいと思っております。

関係皆様には、一層のご支援とご協力を願いいたしますとともに、本年が皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますように心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



人が輝く「元気とやま」の創造をめざして

富山県知事 石井 隆一

明けましておめでとうございます。西暦2015年の初春を県民の皆様とともに寿ぎたいと存じます。

平成16年11月の知事就任以来、多くの県民の皆様のご支援とご支持をいただきながら、ふるさと富山県の発展と県民の皆様の幸せのために邁進してまいりました。

私の変わらぬ目標は、県民の皆様一人ひとりが希望と誇りを持って、輝いて生きられる「元気な富山県」を創ることです。このため、タウンミーティングなどを通して幅広い県民の皆様のご意見をお聴きしながら、「活力」「未来」「安心」を柱とする基本政策と、重要政策「人づくり」の推進に積極的に取り組んでいるところです。

まず、県民の長年の悲願である北陸新幹線が、いよいよ本年3月14日に開業し、富山・東京間が最速2時間8分で結ばれます。この五十年、百年に一度の絶好のチャンスである開業の効果を最大限に高めるため、官民一体となった取組みが展開されるとともに、並行在来線の開業に向けた準備が進んでいます。あわせて、日本海側の総合的拠点港である伏木富山港や富山きときと空港の機能充実が図られるなど、陸海空の社会資本整備が大いに進展しています。

地方創生・人口減少対策については、国の動きに先駆け、昨年10月に設置した「まちの未来創造会議」において、実効性の高い具体的方策をとりまとめ、市町村や県民・企業の皆さんと連携しながら、持続可能で活力あふれるまちの未来を創造してまいります。

また、本県の強みを活かした最先端ものづくりの強化、観光振興や魅力あるまちづくりなど、産業経済や地域の活性化を図り、本県を大きく飛躍させる取組みが広がっています。

さらに、社会全体で子育てを支援する体制が整備されるとともに、教育・文化の振興等を通して、真の人間力を育む教育が展開されています。

安心して暮らせる地域づくりについては、医療・福祉の充実、環境の保全、東日本大震災の教訓をふまえた防災対策の拡充等が着実に図られています。

こうした取組みを通して、夢・情熱・志を持って、富山県の新たな未来を切り拓く「人づくり」が進展しています。

北陸新幹線が開業する本年は、一つの大きなゴールを迎えると同時に、「とやま新時代」に向けて新たにスタートを切る年です。十年、二十年、三十年先を見据え、さらなる成長・飛躍を遂げるための布石をしっかりと打っていくなければなりません。今後とも、県民の皆さんとの知恵と力を結集して、人が輝く「元気とやま」の創造に全力を尽くしてまいります。

新年にあたり、県民の皆様の県政に対するご理解とご協力をお願い申しあげますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、新年のごあいさつといたします。



新年を迎えて

富山県議会議長 高 平 公 嗣

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい平成27年の新春を、皆様とともに寿ぎたいと存じます。

皆様には、日頃から本県の農業・農村整備に多大なご尽力をいただき、深く感謝を申しあげます。

さて、我が国の社会経済環境は、少子高齢化の進行と人口減少時代の到来、グローバル化の一層の進展や環境・エネルギー問題の顕在化など大きく変化しております。特に、昨年はウクライナ問題や中東におけるイスラム国台頭など国際情勢が緊迫化するなか、日本にとっても、全国各地で頻発する土砂災害や御嶽山の噴火をはじめ、大幅な円安の進行、安倍総理大臣の消費税率10%への引上げ延期表明と衆議院解散・総選挙の実施など、激動の一年でありました。このような社会経済状況の中で、各自治体においては、自らの判断と責任において、個性豊かな地域社会づくりに積極的に取り組むことが求められております。このため本県では、県民が豊かさを実感でき、いきいきとした生活が営める元気な富山県を築くため、本県の有する豊かな可能性や魅力を存分に引き出す各種施策を展開しているところです。

また今年3月には県民の夢と期待を乗せた北陸新幹線がいよいよ開業いたします。

県議会といたしましても、県政運営の両輪の一つとして、新幹線開業効果活用対策をはじめ各種施策の推進を積極的に支援するとともに、県民の皆様の声に真摯に耳を傾け、皆様に一層信頼され、期待される議会となるよう、最大限の努力をしてまいる所存であります。

申すまでもなく、農業・農村は、安全で良質な食料の供給はもとより、県土の保全や環境の保全、文化の伝承など、極めて重要かつ多面的な役割を果たしております。特に、農業用水は、農業の生産基盤であるとともに、生活用水や消流雪・防災用水として、さらに、最近では発電資源として注目されるなど多面的な機能を有しております。

近年、農産物価格の低迷や担い手の高齢化、TTP問題、米政策・農地政策の抜本的な見直しなど、農業・農村を取り巻く環境は大変厳しいものがありますが、富山県土地改良事業団体連合会におかれましては、これまで培われてきた優れた知恵と技術を活かされ、必ずや、個性豊かな魅力ある農業・農村のより一層の輝かしい未来を切り拓かれるものと確信しております。

どうか、皆様には、今後とも本県発展のため一層のご尽力を賜りますようお願い申しあげますとともに、新しい年が皆様にとって希望に満ちた幸多い年でありますようお祈り申しあげ、新年のご挨拶といたします。



年頭挨拶

北陸農政局長 雜賀幸哉

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より農林水産行政の推進に御理解、御協力を賜り、とりわけ農業農村整備事業の推進に御尽力をいただいていることに厚く御礼申し上げます。

さて、現在、農政は変革期にあります。

御承知のとおり、平成25年12月に「農林水産業・地域の活力創造プラン」が総理を本部長とする農林水産業・地域の活力創造本部において決定され、農林水産業を産業として強くしていくための政策(産業政策)と、国土保全といった多面的機能を発揮するための施策(地域政策)を車の両輪として、関係府省庁が連携し、内閣を上げて取り組むとの方針が示されました。

本プランは、急ぎ着手すべき農政改革のグランドデザインであり、産業競争力会議や規制改革会議における議論を踏まえ、輸出促進や6次産業化等の推進などについて昨年6月に改訂が行われ完成したところです。

今後は、本プランに基づき、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」を実現するため、①需要フロンティアの拡大(国内外の需要拡大)、②バリューチェーンの構築(農林水産物の付加価値の向上)、③生産現場の強化、④農村の多面的機能の維持・発揮を図る取組を進めていくこととなりました。

土地改良事業に関連しては、農業水利施設の持続的な保全・管理や国土強靭化基本計画を踏まえた防災・減災対策の推進策の検討が進められています。

こうした土地改良事業に関する基本方針については、今年3月を目途に策定される、次期食料・農業・農村基本計画や、来年3月を目途に策定する次期土地改良長期計画において、より明らかにされる予定です。

また、具体的な取組としては、農業の競争力強化に向け、農地中間管理機構が昨年から本格的な稼働を始め、担い手への農地の集積・集約化に着手しました。

今後は、農地中間管理機構と連携した農地の大区画化・汎用化等の基盤整備による担い手への農地の集積・集約化を進めていくこととしています。

また、こうした担い手への農地の集積や、農村地域の高齢化、人口減少等により、地域の共同活動等により支えられてきた多面的機能の発揮に支障が生じることから、日本型直接支払(多面的機能支払等)の取組を法律に位置付けることとして、昨年6月13日に「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」が成立し、6月20日に公布され、本年4月1日から施行されることとなりました。

前述の基盤整備による担い手への農地の集積・集約化については、換地業務を通じて集団化を図られてきました。また、日本型直接支払については、これまで農地・水保全管理支払制度の根幹を支えてこられた貴連合会や土地改良区等の皆様の役割と期待は益々大きくなっています。

貴連合会におかれましては、引き続き、こうした取組への御尽力をお願いするとともに、土地改良区が本来の役割を果たしていけるよう、農業水利施設の計画的な補修・補強等に向けた技術的な指導や維持管理体制の再編整備など、土地改良区の組織運営基盤の強化への支援充実について、御配慮をお願いしたいと思っています。

北陸農政局としましても、「攻めの農林水産業」の推進に向け、引き続き現場の声を聴くとともに、現場に施策を的確に伝えていく現場主義の視点に立って、スピード感をもって全力で取り組んでまいる所存ですので、今後とも皆様の御理解と御協力をお願い致します。

結びに、本年が皆様にとりまして良い年となり、また、富山県土地改良事業団体連合会の皆様にとって実り多い年となりますことを御祈念申し上げ、年頭の挨拶と致します。



新年のごあいさつ

富山県農林水産部長 須 沼 英 俊

明けましておめでとうございます。

輝かしい初春を迎え、富山県土地改良事業団体連合会、土地改良区等の皆様方に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

日頃から本県の農業農村整備をはじめ、農業行政の推進に格別のご協力を賜り、心から感謝申しあげます。

さて、本年度の県予算については、25年度補正予算を合わせた14ヶ月予算により、国の農業農村整備予算が大幅に削減される前の21年度当初予算と比較すると106%の109億9千万円を確保し、担い手の育成のための農地の大区画化等の整備や農業水利施設の長寿命化対策、農村地域の防災・減災対策等を推進しています。

農業者の高齢化や担い手不足、米価の低迷など農業・農村を取り巻く環境が厳しさを増す中、これまでも農家負担の軽減に努めてまいりましたが、本年度は、国の事業制度の拡充を受けて、中山間地域防災減災事業を創設し、災害を未然に防ぐため池や用排水路等の整備に農家負担を求めないこととしたほか、農地整備事業における農家負担軽減のための促進費の充実を図りました。また、農業水利施設の維持管理費の軽減を図るため、農業用水を利用した小水力発電を現在の14箇所から28年度に28箇所程度とする目標を掲げ、本年度は、富山県土地改良事業団体連合会とも連携し、新規8箇所を含め10箇所の整備を推進するなど、整備の加速化に取り組んでいるところです。

今後とも、農業の競争力強化や国土強靭化の実現に向けて、「強い農業のための基盤づくり」を担う農業農村整備を計画的に推進してまいります。

国では、TPP交渉が進められるとともに、「攻めの農林水産業」の展開に向けて、昨年度米、米の生産調整や経営所得安定対策の見直し、日本型直接支払制度の創設、農地中間管理機構の整備による担い手への農地集積の促進などの農業政策の改革が進められ、本年度には農協改革等の検討も行われています。

県としましては、地方の基幹産業である農業や多面的機能を有する農村がしっかりと守られる施策が講じられるよう国に強く働きかけるとともに、県独自の施策も積極的に展開し、意欲ある農業者が将来にわたり希望を持ち安心して取り組める農業の実現に努めてまいります。

会員各位におかれましては、引き続き農業・農村の振興など本県農政の推進に、より一層のご尽力をいただきますとともに、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、土地改良関係団体の限りないご発展と皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、新年のごあいさつといたします。



新年に当たって

みどり
全国水土里ネット
会長 野中 広務

平成27年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進に御尽力いただいております皆様に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年末は衆議院議員選挙が行われ与党の大勝となり、慌ただしいままに補正予算や次年度予算の編成作業が越年することとなりました。農業農村整備事業に携わられる皆様には、何かと心休まらない年の瀬となったのではないでどうか。

改めて申し上げるまでもなく、農業・農村は国の大本であり、日本の豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものであります。このため、先人達は農業・農村が健全に発展していく上で、極めて重要な役割を担う農地や農業用水などの維持、更新に向け、献身的な努力を続けてきました。

最近は、気候変動により、全国各地に台風やゲリラ豪雨が襲来してきておりますし、火山の噴火、地震等により甚大な被害も発生しております。災害に遭われた方々に対し、心からお見舞い申し上げますとともに、復旧にあたられた方々に対しまして、心から感謝申し上げます。

さらには、東日本大震災から3年10ヶ月が経ちますが、被災地では、一日も早い復旧・復興を望んでおります。

全国の農業・農村におきましては、過疎化、高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しています。また、昨年は減反政策からの転換に加え、コメの仮払金の低迷など、コメを巡る状況が一段と厳しさを増してきました。一方で、全国各地で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非主食米等への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと大変危惧しております。

さらには、TPP交渉においても、昨年内合意は見送られましたものの、引き続き国益をかけた厳しい調整が行われております。

こうした内外の厳しい情勢が続く中、政府におかれましては、農業・農村の所得倍増を目指すとともに、美しく伝統ある農山村の継承と食料自給率・自給力の向上に向け、「農林水産業・地域の活力創造プラン」を策定し、農地中間管理事業や日本型直接支払制度を積極的に展開されているところであります。また、我が国の国土を維持保全する観点から、「国土強靭化基本計画」を決定し、種々の施策も展開されています。

更に、昨年9月には、「まち・ひと・しごと創生本部」が立ち上げられ、石破大臣がご就任されて、地方を中心として人口急減・超高齢化が急速に進行していくという課題に対し、魅力あふれる地方を創生していくべく積極的に取り組まれております。

先の衆議院選挙では、与党の公約にも「農地の大区画化、汎用化、畑地かんがい等を加速化し、農業の生産性の向上、高付加価値化を図るため、農業農村整備事業を推進します」と書いて頂いたところであります。

我々水土里ネット関係者としましては、こうした政府等の動きを重く受けとめ、その目指す方向に沿って、積極的な貢献を果たしていくことが必要と考えます。加えて、水土里ネットが農業・農村を守り、発展させていく役割の重要性・必要性についても、広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力も必要です。幸いにして、農地を集積し、経営規模を拡大することにより、新たな農業経営を展開すべく、全国各地で志の高い取り組みが見られるようになってきております。

地域の農業や農村が大きく変貌しつつある今、「水」「土」「里」を担う中核的な存在である水土里ネットが、長年培ってきた技術と経験を最大限に活用し、新たな地域農業を切り開き、国民の財産である農業・農村を守り、発展させていくことが重要であります。そのことによって、水土里ネットと農業・農村に対する国民の皆様の幅広い共感が得られ、施策が安定的に実行されるものと確信しております。

本日、輝かしい年の初めに当たり、私も改めて皆様とともに、これら農政の課題に積極的に取り組んで参りますことを、ここにお誓い申し上げたいと存じます。

本年が全国の皆様にとって良き年でありますように、御健勝と御発展を祈念いたしまして、私の新年の御挨拶と致します。

「元気とやま」むらづくり推進大会2014の開催

富山県主催による「元気とやま」むらづくり推進大会2014が、8月25日富山国際会議場メインホールにおいて、活動組織や土地改良関係者等約800人が出席して開催されました。農業・農村の振興と多面的機能の発揮を図るため、中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払制度、耕作放棄地対策や都市農山漁村交流を推進しており、これら取組の必要性や成果を県民に広くお知らせするとともに、活動指導者の情報交換等を図るために開催されたものです。

石井隆一知事の挨拶のあと、来賓として雑賀幸哉北陸農政局長、高平公嗣県議会議長、河合常則富山県土地改良事業団体連合会長の挨拶がありました。

引き続き今年度の農村振興・環境保全優良活動コンクール知事賞の受賞5団体に知事から賞状が贈られました。

その後、食文化プランナーの村上由紀氏(有限会社食養生代表取締役)による「農村で育まれた食文化を活かした交流とむらづくり」と題した基調講演と、5月に内閣官房・農林水産省の『ディスカバー農山漁村(むら)の宝』に選ばれたNPO法人大長谷村づくり協議会理事長村上光進氏による「自然あふれる山里"大長谷"を舞台とした、農援隊などの地域活性化活動」と題した特別講演がありました。

続いて、一日市場の参加者からのPRと、事例発表として受賞5団体から活動内容について発表があり、最後に魚津市黒谷・山女集落の黒田美弥次氏により「元気なむらづくり」に向けて総力を挙げて取り組むとの大会宣言が読み上げされました。

ホワイエでは、パネル展示や14団体の特産品の販売コーナーが設けられ、一日市場として賑わいました。

優良活動受賞団体は、次の5団体です。

- ◇八町地区環境改善活動組織(富山市)
- ◇里山活性化協議会(高岡市)
- ◇黒谷・山女集落(魚津市)
- ◇赤毛集落(氷見市)
- ◇五ヶ種ふるさとを守る会(砺波市)



水土里探訪ウォークin 散居村 高岡 の開催

・主 催：水土里探訪ウォーク実行委員会

(富山県、富山県土地改良事業団体連合会、高岡土地改良協議会ほか3協議会)

・と き：平成26年10月4日（土）

・と こ ろ：高岡オフィスパーク

・参 加 人 数：283名

・コ ー ス：高岡オフィスパーク→戸隠神社→国営附帯庄川左岸地区水路

→飼料用米ほ場→石碑（吉住村かんがい渠碑）→散居景観

→国営庄川左岸地区庄川放水路→国営庄川左岸地区沈砂池

→あぐりっち戸出店（農産物直売所）→高岡オフィスパークの約6km

平成15年度より始まった水土里ウォークは今回で23回目となり、開会式では、主催者を代表して運営委員長の大井正樹 高岡市土地改良区理事長が挨拶され、地元高岡市の高橋正樹市長が歓迎のことばを述べられました。ラジオ体操の後、さわやかな秋空のもとスタートし、国営総合農地防災事業庄川左岸地区の放水路や沈砂地、国営附帯庄川左岸二期地区の水路、飼料用米ほ場などを見



学し、農業用水の役割や歴史などを学びながら、アズマダチの散居村景観の中のウォーキングを楽しみました。富山県のイメージキャラクター『きときと君』と、高岡市のマスコット『利長くん』も参加者の応援に駆付けてくれ、また、コースのポイント8箇所中5箇所ではクイズもあり、ゴール後は抽選で地元特産品のプレゼントがありました。



平成26年 とやま水土里フォーラムの開催

富山県と富山県土地改良事業団体連合会との主催による「平成26年とやま水土里フォーラム」が、平成26年10月10日(金)南砺市井波総合文化センターにおいて、土地改良関係者、県・市町村等 約600人が参加して開催されました。



次に知事表彰があり、土地改良施設の維持管理や、多面的機能の發揮のための活動に取り組み、他の模範となる団体および個人に対して「とやま水土里賞」が授与されました。受賞されたのは、次の2団体4個人の方々です。おめでとうございました。

- ・小矢部市土地改良区埴生大池地区委員会
(小矢部市)
- ・福山自治委員会 (砺波市)

主催者を代表して、寺林敏副知事、河合常則県土連会長から開会の挨拶があり、続いて来賓の雜賀幸哉北陸農政局長、高平公嗣富山県議会議長、田中幹夫南砺市長の祝辞がありました。

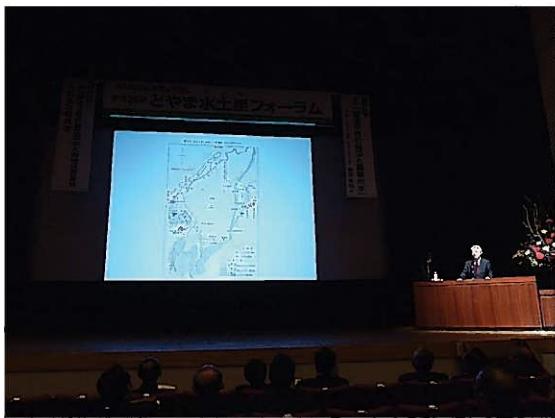


- ・村田 定義 氏 (黒部市)
- ・水納 公男 氏 (富山市)
- ・藤記 孝義 氏 (富山市)
- ・八幡 俊一 氏 (射水市)

また、受賞者の内、小矢部市土地改良区埴生大池地区委員会と福山自治委員会からは事例発表が行われました。

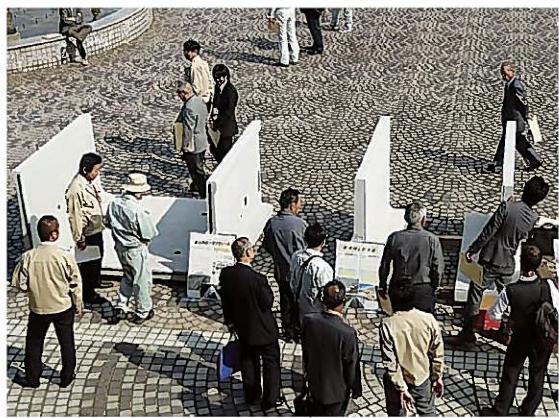


つづいて、基調講演に入り、富山県出身で京都大学名誉教授の金田章裕氏が「砺波平野の開田と農業用水」と題し講演されました。人文地理学・歴史地理学をご専門とされている金田先生からは、古代からの庄川の治水・利水の歴史の中から、今日の豊穣な砺波平野の発展に至る経緯について



お話をあり、午前の部を終了しました。

一方、ロビーでは南砺市や砺波市の特産品の展示・販売が、また屋外では農業用コンクリート製品の展示がそれぞれあり、大勢の来場者で賑わいました。



午後の現地研修では、国営総合農地防災事業庄川左岸地区の新川原川分水場、県営かんがい排水事業砺波中部2期地区の砺波神島調整池、同庄川地区の庄川地区共同用水路揚水機場およ

び庄川沿岸用水土地改良区連合の高瀬発電所、また、JAとなみ野の稻種センターを大型バス8台に分乗し研修を行い、全日程を終了しました。



平成26年度 第2回理事会の開催

本会の平成26年度第2回理事会が、12月5日、土地改良会館内において理事、監事が出席して開催されました。

理事会は、最初に河合会長の挨拶があったのち議事に入り、議案第1号「平成26年度業務中

間報告について」の説明を事務局から行い、審議を経て承認されました。

引き続き、平成27年度農業農村整備事業の推進に関する要請内容について意見交換を行い、理事会を閉会しました。



平成26年度 富山県功労表彰

本年度の富山県功労表彰において、土地改良関係では城端土地改良区理事長の岩田忠正氏が受賞されました。

長年のご功績に対し深く敬意と感謝を申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

岩田 忠正 氏 (城端土地改良区理事長)



(主な経歴)

城端町長	平成9年～平成16年
富山県議会議員	平成16年～平成19年
城端町土地改良区 理事長	平成10年～平成23年
桜ヶ池土地改良区 理事長	平成18年～平成23年
城端土地改良区 理事長	平成23年～現在

北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 農業農村整備事業に関する要請

平成27年度の概算要求に向けて、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会(幹事県 新潟県)では北陸四県の各土連の会長、事務責任者が、平成26年11月19日に北陸農政局長をはじめ、農政

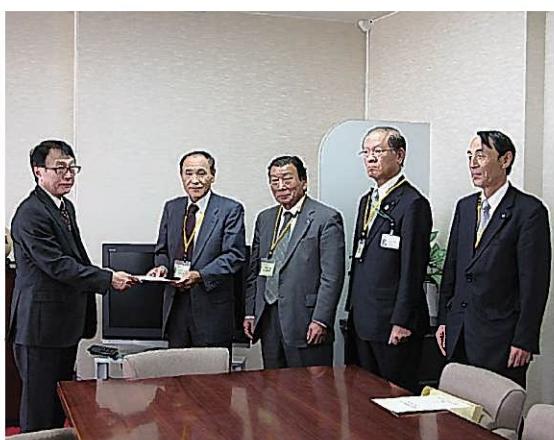
局幹部職員に対して、また、11月27日には農林水産大臣、各県選出国会議員ならびに農村振興局長ほか農水省幹部職員に対して予算確保や施策提案等の要請を行いました。

**要請先 農林水産省政務三役、県選出国会議員、
農村振興局長ほか農林水産省幹部職員及び北陸農政局幹部職員**

要望事項

- 農業農村整備事業の着実な推進について
 - 農業農村整備事業（公共）予算の確保
 - 農山漁村地域整備交付金（公共）予算の確保
 - 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金予算の確保
- 農業・農村の再生に向けた支援
 - 「日本型直接支払制度」の予算確保と全額国費による実施
 - 「農地中間管理事業」の機構集積協力金の予算確保
- 農家の負担軽減に向けた支援
 - 農家の負担軽減対策や土地改良施設管理、土地改良区運営支援に係る補助事業の充実と十分な予算確保
 - 電気料金の値上げにより、農業用水利施設等の運転経費高騰の影響を受ける土地改良区への支援
 - 農村地域に豊富に存在する再生可能エネルギー（小水力、太陽光等）の積極的な活用は、農業水利施設等の維持管理費の節減にもつながることから、施設整備に係る補助制度の継続と予算確保と安定した「固定価格買取制度」の運用継続

また、同日、富山県選出国会議員に本会としての要請も行った。



北陸農政局長へ



農村振興局長へ

第37回全国土地改良大会（山梨大会）

第37回全国土地改良大会山梨大会（主催 全国土地改良事業団体連合会、山梨県土地改良事業団体連合会）が、10月30日山梨県立産業展示交流館（アイメッセ山梨）において、全国から土地改良関係者約3,600名が参加し、「富士の国山梨発かけがえのない農業を次世代へ 水土里育む土地改良」をテーマとして盛大に開催されました。式典は、白倉山梨県土地連会長が開催県挨拶、野中全土連会長の主催者挨拶、横内山梨県知事と棚本県議会議長の歓迎のことば、小泉農林水産副大臣の来賓挨拶がそれぞれ述べられました。

また、今大会では、安倍晋三内閣総理大臣からメッセージが届いており、司会者により朗読されました。

引き続き、土地改良事業功績者表彰が行われ、農林水産大臣表彰6名をはじめ、農村振興局長

表彰15名、全国土地改良事業団体連合会長表彰45名に表彰状と記念品が授与されました。

続いて、小林祐一農林水産省農村振興局次長より基調講演が行われ、山梨県立農業大学校の石原晃平さんと窪田千春さんによる大会宣言の後、次期開催県である青森県土地連へ大会旗が引き継がれ盛会裡に終了しました。



大会宣言

豊かな水と緑、日照時間に恵まれた、ここ山梨は、本州のほぼ中央に位置し、首都圏にありながら、周囲を世界文化遺産の富士山をはじめ、八ヶ岳、南アルプスといった名峰に囲まれています。

本県においては、県土の約8割を森林が占め、農地の約3分の2が中山間地域であるという不利な条件にもかかわらず、先人達による水利開発や農地整備とともに農業者のたゆまぬ努力と工夫・経験に裏打ちされた高度な生産技術により、狭い農地でも高収入が得られる生産性の高い農業が展開されています。全国的に農業所得の向上が喫緊の課題とされる中で、本県の10ha当たりの生産農業所得は、全国でも常に上位に位置しており、特にぶどう、もも、すももの生産量は全国一を誇り、「果樹王国やまなし」としての地位を築いています。

しかしながら、近年、農業・農村を取り巻く状況は、国際的な農産物流通の自由化や消費者ニーズの多様化など、大きく変化しており、農業の担い手不足や耕作放棄地の増加、農村地域の高齢化など、多くの課題を抱えています。

一方、農業は気象状況に大きく左右される産業であり、近年の異常気象の影響もあり、災害が頻発する傾向で、一度の災害で収穫が皆無という甚大な被害を受けることも稀ではありません。本県では、今年2月、過去に経験したことのない県内観測史上最大の大雪により、ビニールハウスなどの農業施設は壊滅的な被害を受けました。現在学んでいる農業大学校においても、野菜のハウスが倒壊してしまい、自然災害の恐ろしさを目の当たりにしたところです。

こうした中、政府は昨年12月、「農林水産業・地域の活力創造プラン」を決定し、本年6月に同プランを改訂しました。このプランでは、農業を足腰の強い産業としていくための産業政策と、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るために地域政策を軸の両輪として推進することとし、農地中間管理機構制度や日本型直接支払制度などの4つの改革に関係者が一体となって取り組み、若者たちが希望を持てる「強い農林水産業」と「美しく活力のある農山漁村」を創り上げていくこととしています。

農業を魅力ある産業にするため、私たちは、「我が国における食料の自給率向上と安定供給の確保」、「農業・農村の多面的機能の発揮」、「農業の持続的発展」、「農村の振興」などの必要性・重要性について、これまで以上に国民的理解の醸成を図っていくとともに、今こそ「農業農村整備事業の役割」を広く国民にアピールしていく必要があります。

また、国土強靭化基本計画に基づく生産基盤等の整備や農村の地域資源を有効に活用した太陽光・小水力発電などの再生可能エネルギーの普及を着実に行うことにより、地域の災害対応力の強化や地域資源の適切な保全管理を図り、災害に強く環境に優しい農業・農村を目指すことが、更なる農業・農村の発展と「水土里ネット」の躍進へと繋がるのではないかでしょうか。

農業・農村が健全であってこそ、豊かな国土や自然環境が維持されると思います。

本日、ここに集う私たちをはじめとする「水土里ネット」の人々は、先人達から受け継がれてきた、かけがえのない農業・農村を次世代へ引き継いでいくことを、「水土里育む土地改良」を合い言葉に、ここ「富士の国やまなし」から高らかに宣言します。

第37回全国土地改良大会山梨大会・総理メッセージ

「第37回全国土地改良大会山梨大会」の開催に当たり、一言お祝いを申し上げます。

日本は古来、瑞穂の国と呼ばれてきました。草を引き、あぜを守り、水を保つ。こうした営みが、日本の景観、国土、そして国柄を形づくってきました。まさに農業は国の基であり、先人たちの努力による美しい田園風景があってこそ、美しい日本ではないかと思います。

一方で、我が国の農業は、農業生産額の減少と高齢化の進展、耕作放棄地の増加等の構造的な問題に直面しています。

このため、安倍内閣においては、農地集積バンクによる農地集積、本年六月に法制化した日本型直接支払の実施などの農政改革を進めることによって、農業を若者に魅力ある成長産業とし、農業・農村全体の所得倍増の実現につなげていきたいと考えております。

本年は、豪雪、豪雨、噴火、台風と災害が頻発しました。被害に遭われた方々には心からお見舞い申しあげます。私も四月に山梨県甲州市を訪れ、春先の豪雪で被害を受けた若手ブドウ農家の皆さんと懇談いたしました。

厳しい状況にもめげず、力強く六次産業化や規模拡大への意欲を語ってくれたことがとても印象的でした。

我が国の農業を成長産業としていくためには、農業農村整備の推進も含め、政策を総動員することによって、農業の生産性と付加価値を高めていくことが重要です。明日の農業を切り拓く経営マインドをもったやる気のある担い手が、今後ますます活躍できるよう、これからも農政改革に取り組んでまいります。

最後に、ご臨席の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

平成26年10月30日

内閣総理大臣 安 倍 晋 三

平成26年度換地関係異議紛争処理対策検討会 (北陸ブロック)

換地関係異議紛争処理対策検討会（主催：全土連、開催県：福井県土連）が平成26年10月9日～10日福井市において本省・農政局・全土連・北陸4県の県・県土連の換地担当者28名が出席して開催されました。

挨拶の後、本省の前田企画官から「換地を取りまく状況について」と題して中央情勢について報告が行われました。引き続き新潟県・富山县の換地関係異議紛争処理事例に基づくケース・スタディーの検討会が行われました。テーマは、

「換地配当を不服として換地計画に対する異議申立が行われた事例について」、「一時利用地の指定及び隣接する非農用地に係る紛争事例について」、活発な意見交換及び総括が行われました。翌10日は、石川県から「換地計画を不服」とし、分筆代位登記の撤回を求める事例につい

て」事例報告があり検討会が行われました。最後に、中央換地センターから「換地計画異議紛争処理対策検討会で検討した紛争事例の発生端緒とその対処策の中間総括について」報告があった後、各県での換地に関連した問題点等について活発な意見交換を行い全日程を終えました。



平成26年度富山県建設優良工事(土地改良部門)の表彰

富山県が建設技術の向上と建設工事の適正な施工を行い農業農村整備事業の健全な発展を期するため、毎年実施している県内優良工事の平成26年度「知事賞」並びに「農林水産部長賞」の表彰式が、平成26年11月28日富山県庁において工事関係者を招き開催されました。

また、各農林振興センターの表彰式は、新川管内(12月2日)、富山管内(12月3日)、高岡管内(12月4日)、砺波管内(12月4日)で、それぞれ開催されました。

【知事賞】

請負者	分野	工事名	工事場所
伊藤建設株	伊藤 甚宰 農地防災	ため池等整備島尻地区宮谷用水路第2工区工事	魚津市島尻
水新建設株	水野 幸裕 農地防災	ため池等整備下大久保地区下大久保用水路第4工区工事	富山市下大久保ほか
(株)吉田組	吉田 輿晴 農地防災	ため池等整備高尾大池地区高尾大池堤体改修工事	小矢部市谷坪野

【農林水産部長賞】

請負者	分野	工事名	工事場所
鹿熊工業株	鹿熊 伸一 農地防災	河川応急小川地区小川頭首工転体補修工事	朝日町山崎
勝田建設工業株	勝田 武夫 ほ場	ほ場整備舟川新地区第8工区ほ場整備工事	朝日町舟川新
共和土木株	高村 克宏 農道整備	基幹農道新川中部二期地区道路工黒部第8工区工事	黒部市神谷ほか
(株)東洋住設興業	村野 光明 かん排	基幹水利施設井田川流域2期地区杉田用水路第1工区工事	富山市八尾町井田
北尾工業有	北尾 知大 農地防災	地すべり対策八尾地区室牧上野堰堤工事	富山市八尾町細滝
協和建設株	若瀬 政雄 農地防災	中山間防災外輪野地区外輪野用水路第4工区工事	富山市婦中町外輪野
(株)早水工業	早水 一高 農地防災	農地防災庄川左岸一期地区新又口用水路第3工区工事	高岡市醍醐須田外
三興土木株	久保 俊介 農地防災	地すべり対策水見地区南上野堰堤工事	水見市上野
(株)宮木建設	宮木 一夫 農地防災	農地防災庄川左岸二期地区不動島江排水路第2工区工事	砺波市鷹栖
北陸ハイウェイ建設株	山本 吉弘 農地防災	農地防災庄川左岸二期地区不動島江排水路第3工区工事	砺波市鷹栖外
太嶋建設株	太嶋 勇 ほ場	ほ場整備北山田中部西地区ほ場整備第10工区工事	南砺市宗守外

【新川農林振興センター所長賞】

賞区分	請負者	工事名	工事場所
県 優秀賞	(株)黒部重機	ほ場整備 飯沢柄沢地区 暗渠排水第1工区工事	黒部市飯沢
同 優秀賞	五十里建設株	ほ場整備 古黒部北部地区 第2工区客土工事	入善町古黒部
同 良賞	加積建設株	土地改良総合整備 滑川東部地区 農道工野尻線第1工区工事	滑川市野尻ほか
団体 優秀賞	(株)大豊建設	団体営農山漁村地域整備交付金基盤整備促進事業 南保北部荒江用水路修繕工事	朝日町小更
同 良賞	(株)河口組	団体営農山漁村地域整備交付金事業 1号用水路改修工事	魚津市湯上

【富山農林振興センター所長賞】

賞区分	請負者	工事名	工事場所
県 最優秀賞	細木建設株	ため池等整備 才覚地地区 上野用水路改修その2工事	富山市才覚地
同 優秀賞	(株)杉山組	中山間総合整備 富山広域地区 八尾工区 4-11水路ほか工事	富山市八尾町外堀ほか
同 良賞	共栄建設工業株	中山間総合整備 富山広域地区 山田工区 6-9ため池改修工事	富山市山田今山田
団体 優秀賞	松嶋建設株	基盤整備促進事業 立山地区鉄物師川排水路改修(第2工区)工事	立山町道源寺
同 良賞	大陸建設株	基盤整備促進事業 井口川沿岸地区 館本郷西排水路工事	富山市八尾町館本郷
同 良賞	正栄建設有	基盤整備促進事業 保内地区 上野排水路工事	富山市八尾町福島上野

【高岡農林振興センター所長賞】

賞区分	請負者	工事名	工事場所
県 最優秀賞	松島工業株	農地防災 庄川左岸二期地区 柳瀬口用水路第1工区工事	高岡市戸出西部金屋
同 優秀賞	(有)角玄工業所	農地防災 庄川左岸二期地区 柳瀬口用水路第2工区工事	高岡市戸出西部金屋
同 優秀賞	昇永工業株	地すべり対策 水見2期地区 坪池前田水抜ボーリング洗浄工事	水見市坪池
同 優秀賞	児島工業株	基盤整備促進 吉住地区 大井川第5工区工事	高岡市戸出吉住
同 良賞	上下興業有	基盤整備促進 矢部地区 第1工区工事	高岡市福岡町一歩二歩
同 良賞	(株)片山上建	基盤整備促進 小矢部地区 谷内用排水路改修工事	小矢部市埴生

【砺波農林振興センター所長賞】

賞区分	請負者	工事名	工事場所
県 最優秀賞	土山建設株	地すべり対策 福光地区 脇又整備工事	南砺市土山
同 優秀賞	萩浦工業株	農業水利施設保全合理化 刀利・白中地区 刀利ダムキャットウォーク整備工事	南砺市刀利
同 優秀賞	(株)岡部砺波営業所	県単独農業農村整備事業 宮丸中部地区 排水路整備工事	砺波市宮丸
同 良賞	上坂建設株	団体営基盤整備促進事業 福光地区 小坂用水工区用水路整備工事	南砺市小坂
同 良賞	大窪建設株	基盤整備促進事業 国広中部地区 水路改修工事	南砺市国広

黒部川左岸土地改良区・布施川土地改良区 合併予備契約調印式

黒部川左岸土地改良区、布施川土地改良区は、平成17年7月に複数の土地改良区が合併し今日に至っていました。平成25年7月、布施川土地改良区から黒部川左岸土地改良区との合併の申入れを機に、土地改良区の現状と諸課題、土地改良区のあり方、行政機関との連携等について検討を始め、平成25年12月に「黒部川左岸・布施川地区統合整備推進協議会」を設立し、組織運営体制の構築を図るため、合併協議を進めてきました。この度合意がなされ、平成26年7月8日黒部市国際文化センターコラーレにおいて、合併関係土地改良区、黒部市、魚津市、富山県新川農林振興センター等の関係者約70名が出席して合併予備契約調印式が行われました。

調印式は、荻野幸和黒部川左岸土地改良区理

事長(推進協議会顧問)、横山 栄布施川土地改良区理事長(推進協議会会长)の挨拶、経過報告、合併予備契約書の確認の後、2土地改良区理事長(荻野黒部川左岸土地改良区理事長、横山布施川土地改良区理事長)並びに立会人の堀内康男黒部市長、澤崎義敬魚津市長、谷 徹朗富山県新川農林振興センター所長が合併予備契約書に署名捺印されました。

続いて、堀内黒部市長、澤崎魚津市長、谷富山県新川農林振興センター所長、石田博信富山県土地改良事業団体連合会専務理事の来賓祝辞があり、閉式となりました。

今後は、平成27年2月の合併認可を受けて、新しい「黒部川左岸土地改良区」として、受益面積2,677.5ha、組合員数4,196名となる予定です。

土地改良区名(合併前)	受益面積(ha)	組合員数(名)
黒部川左岸土地改良区	2,277.0	3,503
布施川土地改良区	402.5	779



土地改良区の組織強化を目指し、各種研修会を実施

(1)富山県換地センター研修会

富山県換地センターでは、換地技術者育成を目的とした研修会を年2回実施しています。前期研修会は、平成26年6月25日に富山県国際健康プラザにて「平成26年度富山県換地センター換地計画実務研修会」を開催し、土地改良区、県、県土連の担当者、計43名が出席して開催さ

れました。

研修会は、まず浦田一郎換地土部会長、石田博信富山県土地改良事業団体連合会専務理事の開会挨拶があった後、下記の内容にて研修を行いました。

平成26年度富山県換地センター換地計画実務研修会

講義内容	講師
換地理論について	北陸農政局農村計画部土地改良管理課 土地改良指導官 山崎 祐治
優良無花粉杉 「立山 森の輝き」の開発について	富山県農林水産総合技術センター 森林研究所 主任研究員 斎藤 真己
交換分合の概要について	富山県土地改良事業団体連合会指導部 指導課換地班 係長 筒井 政和



換地理論について



優良無花粉杉「立山 森の輝き」の開発について

(2)小水力発電施設見学会

- 1)日 時 平成26年10月27日(月) PM13:00~
- 2)場 所 鋤川用水地区(事業主体:早月川沿岸土地改良区, 平成25年度着工)
中野放水路地区(事業主体:庄川沿岸用水土地改良区連合, 平成25年度着工)
- 3)参加者 土地改良区等、富山県、市町村の小水力発電担当職員 約60名
- 4)講 師 新川農林振興センター 松本水利防災班長
庄川沿岸用水土地改良区連合 定司理事、梅基事務局長



(3)小水力等発電導入技術力向上地方研修事業技術研修会

- 1)日 時 平成26年11月11日(火) AM10:00~
2)場 所 富山県総合情報センター内会議室
3)参加者 土地改良区等、富山県、市町村の小水力発電担当職員 約60名
4)講 師 富山県農村整備課：平木副係長 富山県土連：紫藤総務課長、館野整備課長
水力アカデミー：稻垣事務局長代理
東京発電群馬営業所：和栗工務課長
北電技術コンサルタント：
今井土木本部長
5)内 容 • 発電施設検討の基本的事項および設計施工のポイント
• 関係法令と系統連系および発電設備の運転・保守
• 発電会計および複式簿記の基礎知識 など



※研修では、活発な意見や要望等がありました

(4)県単独農業農村整備 平成26年度直営施工研修会in富山

- 主 催：富山県農村整備課
開 催 日：平成26年12月 2日
会 場：八尾ゆめの森ゆうゆう館中山間地域活性化施設
参 加 者 数：39名（地区代表者、土地改良区役職員、市町村職員等）
趣 旨：直営施工とは、農家や地域住民が工事に参加して、小規模な用排水路や農道、暗渠排水、環境整備など身近な施設を整備することであり、直営施工を実施することにより、工事費が比較的安価になることや、共同活動による地域の活性化などといった効果が期待されます。

研修内容

- 【室内研修】
• 直営施工推進マニュアルの説明：富山農林振興センター 西田主任専門員
• 水路目地補修の模擬実演：株式会社大豊建設 土木部長 和田 淳 氏
【現地研修】
• 目地補修工法視察 維持管理適正化事業S-19-2号用水路
• モルタル塗装工法視察 三田地内用水路補修工事



室内研修



室内研修（目地補修模擬実演）



現地研修（目地補修工法視察）



現地研修（モルタル塗装工法視察）

起工式・完工式

県営基幹水利施設ストックマネジメント事業庄西地区起工式

9月28日、砺波市のオーラス砺波平安閣で行政関係者や土地改良区関係者など約160人が出席し、県営基幹水利施設ストックマネジメント事業庄西地区の起工式が行われました。

式では、入道庄西用水土地改良区理事長が、「地域の悲願であった庄西用水の改修工事が始まり、事業採択に協力いただいた関係各位に感謝したい」と挨拶され、その後、須沼富山県農林水産部長、稗苗富山県議会副議長、夏野砺波市長が祝辞を述べられ、荒屋砺波農林振興センター所長が事業に至った経緯や工事計画について説明があり、盛会裡に終了しました。



県営経営体育成基盤整備事業高善寺地区完工式

10月11日、富山市のいこいの村磯波風で行政関係者や土地改良区関係者など約80人が出席し、県営経営体育成基盤整備事業高善寺地区の完工式が行われました。本地区は平成19年度から平成24年度にかけて大区画ほ場整備や客土、農道等総合的整備を行い、生産性の高い低成本化農業の確立を目指して事業が行われてきました。平成26年初めまでに換地業務等の手続きを終え、完工式に至りました。総事業費は約763,000千円、事業面積は約41.0ha



情 報

◆富山県農業用水小水力利用推進協議会◆

当協議会では、平成26年度に小水力等発電導入技術力向上地方研修事業（定額補助）を活用して研修等事業を実施しました。また、土地改良区等へ専門技術者を派遣する予定としており、その内容についてお知らせします。

■専門技術者派遣

- 1) 目 的 発電施設の運転管理や会計処理等に関する課題を有する土地改良区へ専門技術者を派遣し、課題解決に向けた指導・助言をおこなうもの
- 2) 派遣者 税理士、民間（複式会計システム業者）、県土連職員等
- 3) 派遣先 関係土地改良区および土地改良区連合
- 4) 期 間 平成26年12月～平成27年3月（予定）
- 5) その他 対象とする土地改良区等とは事前に日程・内容について調整

なお、全土連が事業主体となり中央研修事業を実施しており、当協議会から小水力発電導入に係る基礎的技術の取得、指導者育成を図ることから下記のとおり参加しました。

回 数	月 日	研 修 内 容	参 加 人 数	備 考
第1回	H26. 7/30～7/31	発電施設検討の基本事項	5名	
第2回	H26. 9/29～10/1	調査設計～整備、運営管理	4名	
第3回	H26. 10/20～10/21	会計処理	11名	

情 報

◆非補助農業基盤整備資金のご案内◆

1. 非補助農業基盤整備資金とは

土地改良区等が国からの補助を受けないで、かんがい排水やほ場整備、客土などの事業に取り組み、農業生産基盤整備・保全の推進を図る場合、日本政策金融公庫等が農家負担の軽減を目的に、土地改良区等に対し低利で融資する資金です。国の補助対象でない県又は市町村単独による補助事業についても、融資の対象となります。

2. 対象となる事業種類・内容

かんがい排水、畑地かんがい、ほ場整備、暗渠排水、客土、農道、索道(軌道等運搬施設を含む)、畦畔整備、農地造成、防災・農地保全、農業集落排水(農村下水道)、発電施設。
維持管理計画書作成に係る調査費、土地改良区事務所の新增築、事務機器や複式簿記導入に係るシステム、車両など

3. 融資条件

●貸付対象者

土地改良区、土地改良区連合(事業主体となる場合に限る)、農業協同組合、農業協同組合連合会、農業を営む方、農業振興法人

●償還期間 25年以内(うち据置期間10年以内)

【農業農村整備資金利率】

区分		H26.11.20現在
補 助 事 業	県 営	0.95 %
	団 体 営	0.80 %
非 補 助 事 業	一 般	0.80 %

〈お問い合わせ先〉

- ・富山県農林水産部農村整備課換地業務係 076-444-3375
- ・北陸農政局農村計画部土地改良管理課 076-263-2161(代表)
- ・富山県土地改良事業団体連合会事業部管理課 076-424-3380

〈融資担当機関〉

- ・日本政策金融公庫富山支店 076-441-8411
- ・農林中央金庫富山支店 076-445-2508(公庫受託課)

お 知 ら せ

今後の主な行事予定 (平成27年1月~)

月 日	会 議 と 行 事	場 所	参 加 対 象	備 考
1月28日	技術力向上事業技術研修・ 換地計画実務研修会	富山県総合情報センター	土地改良区・市町村・ 県・換地技術者等	主催
2月19日	富山県担い手育成ほ場整備研修会	新川文化ホール	土地改良区・營農関係者等	ほ研会
3月23日	本会第57回通常総会	ホテルグランテラス富山	会員・来賓等	主催

(注) 予定であり、別途詳細案内等を確認のうえ参加ください。

平成26年度「とやま水土里賞（知事賞）」受賞者の紹介

小矢部市土地改良区埴生大池地区委員会（埴生大池）



揚水機場の導水路清掃

福山自治委員会（福山大溜池）



堤体の除草作業

村田定義 氏（笠破頭首工ほか）



周辺施設の除草

水納公男 氏（広田用水路）



施設の見学会

藤記孝義 氏（外輪野用水路）



除塵機の操作

八幡俊一 氏（串田取水門）



水門の操作



農業農村整備事業等の調査・測量設計等業務に関する
ご相談は、下記までお問い合わせください。

富山県土地改良事業団体連合会

〒939-8214 富山市黒崎17番地
TEL076-424-3300 FAX076-424-3332
<http://www.tym-midori.net/tomidoren>

